

Articles

Conferences
& Lectures

Research
Activities

「白眉」の運命 ——『モリソンパンフレットの世界』 を上梓して

著者 岡本隆司

はじめに

モリソン文庫が日本に渡来して、今年で百年。モリソン文庫とはG・E・モリソン (Dr. George Ernest Morrison, 1862-1920) の欧文書コレクション「アジア文庫 (the Asiatic Library)」の通称である。モリソンはオーストラリア出身の冒険家で、『タイムズ』紙の北京駐在通信員、ついで中華民国外国人顧問に任じ、また稀代の蒐書家でもあった。

渡来以前から著名だったかれの蔵書コレクションのなかでも、ひときわ異彩を放ち、もはや二度と買い得ないといわれるものがある。6,000点あまりのいわゆる「パンフレット」類である。

このモリソンパンフレットは、文字どおりパンフレットというべき単行の小冊子ばかりのコレクションではない。モリソン自身が入手した新聞記事や雑誌論文、あるいは在外公館の文書、さらには、書店のカタログや招待状の類まであって、かれが集めたおびただしい書籍以上に、その生きた同時代の極東問題を表現し、重大な歴史的問題を解く鍵となる貴重な情報源なのである。歴史家・研究者からみれば、モリソン文庫のまさしく「白眉」にほかならない。

しかしこれまで、かくも高く評価されながら、モリソンパンフレットの内容を正確に分析し、その特徴を生かす体系的・本格的な研究は、きわめて少なかった。「パンフレット」一件一件が零細に過ぎ、整理も遅れたためであろう。「白眉」であるにもかかわらず、その可能性に見合う十分な活用が、必ずしもなされてこなかった。

そうした現状に鑑みて、この「白眉」に多方面から検討を加えたのが、このたび上梓した論集『モリソン



図像1 『モリソンパンフレットの世界』

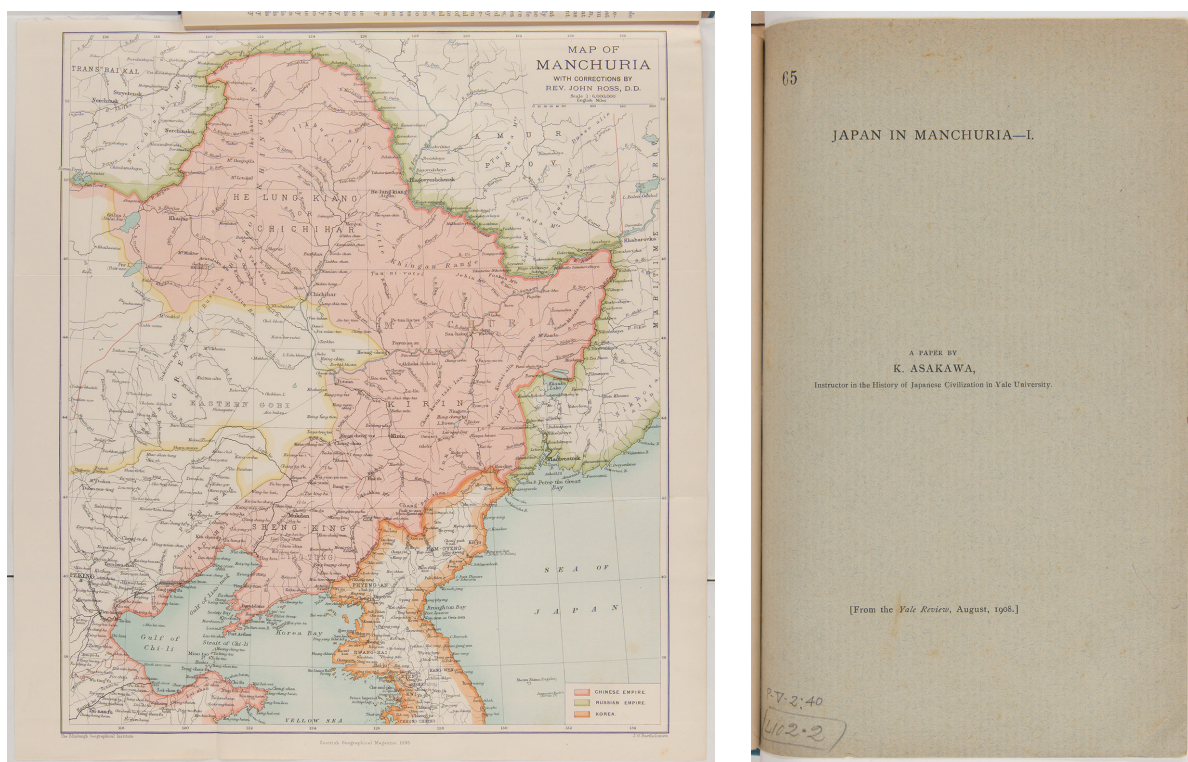
パンフレットの世界』(斯波義信・岡本隆司編, 東洋文庫, 2017年)である。本報告はその内容の一端を紹介し、モリソンパンフレットの活用について考えてみようとするものである。

1 モリソンと中国政治

モリソンパンフレットから見えてくるのは、何よりもそれを蒐集したモリソンその人である。モリソン研究といえば、モリソン文書をまず思い浮かべるけれども、「パンフレット」を利用することで、はじめて窺える、あるいはよりよくわかる側面もあって、まずそこに着眼した。

「北京のモリソン (Morrison of Peking)」のキャリアは、およそ四半世紀にわたる。そのうち、かれが著しい活躍をみせたのは、やはりジャーナリストとしてであった。なかんづく日露戦争をめぐる記者活動、そしてその後、反日に転じた政治活動である。

これについては、従前も二十一カ条要求交渉もふくめ、多くの研究がなされてきた。けれども「パンフレット」を通じ、あらためて認識できる論点もある。イェール大学教授・日本史家の朝河貫一との関係や「満洲」問題でのプレゼンスである。



図像2 「満洲」関係のパンフレット：地図・朝河貫一の論文

その半面、かれがあまり活躍しなかった、できなかった文脈も厳然として存在した。中華民国政府の外国人顧問という立場がそれであって、やはり「パンフレット」からかいま見えるモリソンの一面である。

2 モリソンとその人脈

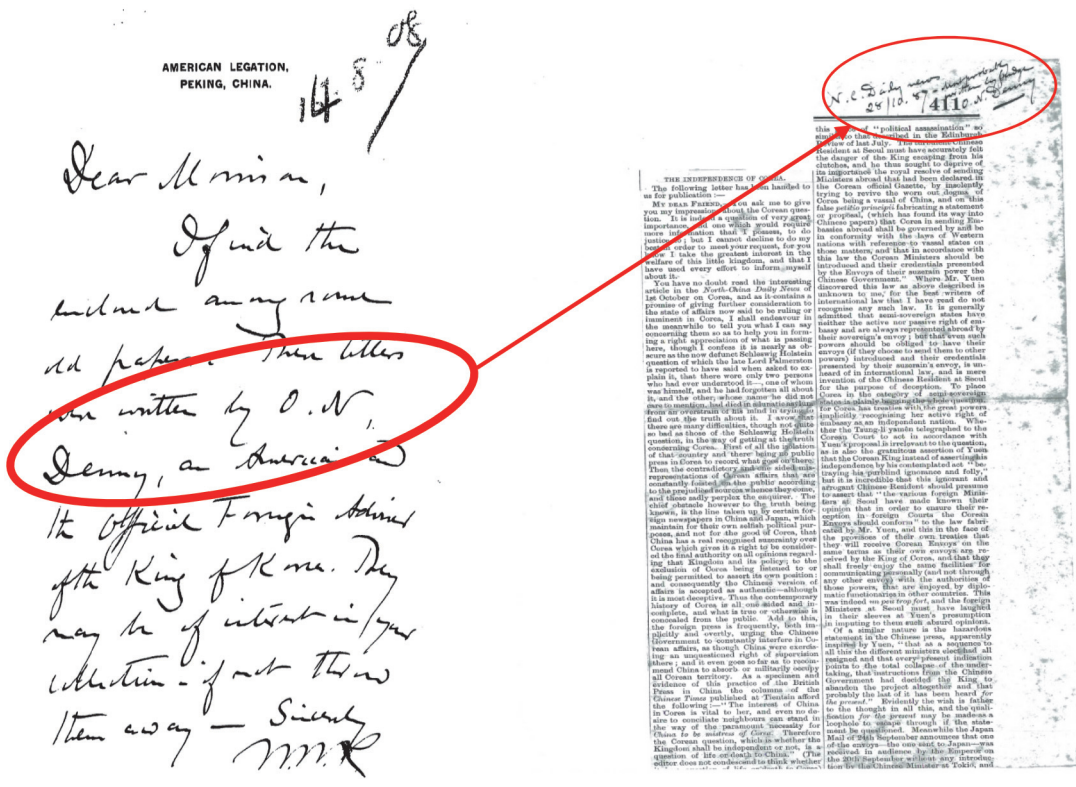
モリソンパンフレットには、その蒐集過程からモリソンの人脈も刻印されている。ここでは、モリソンと親交が深く、また自身の任じた外国人顧問にも擬していた、アメリカの外交官にして東洋学者のロクヒル

(W. Woodville Rockhill)を、その典型例としてとりあげた。その活動とモリソンの関心をつきあわせることで、モリソンパンフレットの射程がいつそう立体的にうかがいあがる。

たとえば、ロクヒルは東洋学者として、チベットとチベット仏教に造詣が深かった。もちろん関係する論著をしばしばモリソンに献呈しており、コレクションにも多く残っている。そうした資料の活用で、新たな角度から当時の東洋学にアプローチできる。

またロクヒルが外交官として、モリソンに送った新聞記事の切り抜きがある。1880年代の「朝鮮独立」に関係する論説で、ロクヒルは匿名のその著者を当時、朝鮮政府の外国人顧問だったアメリカ人デニー（Owen N. Denny）だとみなした。モリソンもそれを信じたため、以後の目録もそれをずっと踏襲し、デニー著として掲出している。

しかし筆者は、当時の関係文献の考証と清韓関係の推移からみて、論説記事の著者はイギリス人で、デニーとは考えにくいと推定した。こうした考察の動機を与えてくれるのも、モリソンパンフレットの効用である。

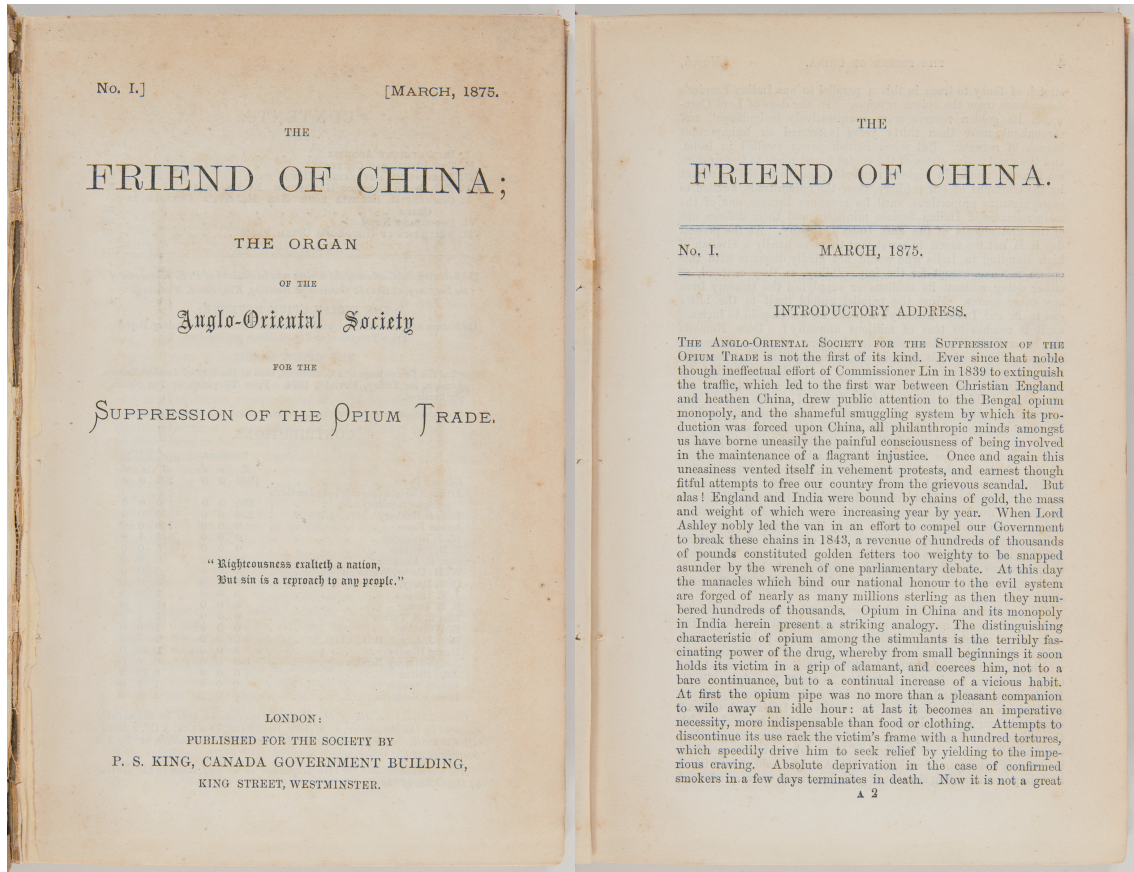


図像3 「朝鮮独立」の新聞記事とロクヒルのモリソンあて書翰

3 モリソンと中国社会経済

パンフレット・コレクションで最も厚みがあるのは、とりわけモリソン自身が精力的に活動したアヘン貿易問題である。かれはその利害関心から、イギリスのアヘン貿易反対協会（[Anglo-Oriental] Society for the Suppression of the Opium Trade）の機関誌 *Friend of China* をはじめとして、アヘン反対運動にまつわる雑誌やパンフレットを、ピラの類いに至るまで、じつにまめまめしく蒐集していた。そのコレクションをみわたすと、当時の中国においてアヘンが占めた位置と果たした役割、それをみるに一樣ではありえなかった西洋

人のまなざしなど、多くを知ることができるのであって、モリソン自身の関心・性向・立場と同時に、それを取りまいていた時代相も見えてくる。



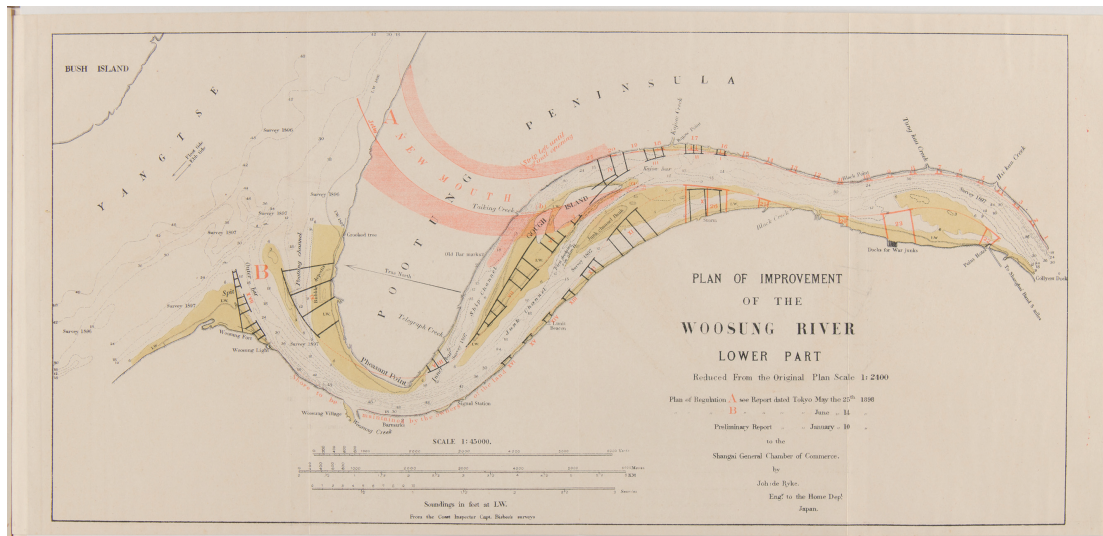
図像4 *Friend of China*

逆にそうした関心から、モリソンが直接には関わらなかった題目・問題の「パンフレット」類をみなおすと、その時事資料としての価値も、あらためて認識できる。

モリソンパンフレットはとりわけ中国の政治・社会・経済について、広汎な範囲をカバーしているから、その実相をつかむ上で有力な手がかりを提供する可能性が高い。

たとえば、モリソンがかなり意識的、系統的に蒐集をしていた問題に、上海・黄浦江の浚渫や中国の幣制改革をめぐる論議がある。そうしたコレクションの筋道に寄り添い、ほかの資料とつきあわせ、組み合わせることで、外国人社会の関心のありようから、事業の計画実施のいきさつに至るまで、かなり精細な史実が明らかになる。

またモリソンの蒐集が多岐にわたって散漫で、あまり系統的ともいえないトピックもあって、むしろそちらのほうが、数では圧倒的に勝っている。その最たるものは、当時の社会的な事件や日常的な金融システムに関わる問題であろうか。こちらはそうしたパンフレットの記事を手がかりに関連資料を集めて、その事件なり、制度なりを追究してゆく研究方法になるであろうし、これまでも数少ない先行研究が用いてきた方法だった。本論集所収の論考も、多かれ少なかれそうした方法を実践しており、コレクションの可能性を証明してくれる。



図像5 黄浦江浚渫：技師ヨハン・デ・レイケの改修案



ATTACK ON A FOREIGNER

図像6 1905年末の上海大暴動

おわりに

本論集は以上のように、モリソンパンフレットを実地に資料として使うさい、手引きの一つになることをめざした。それでも、まだコレクションの九牛の一毛をとりあげたにすぎない。またモリソン自身にも、医学や紀行など、十分に明らかになっていない側面がある。そことの関連づけも、手つかず同然だといってよい。

モリソンパンフレットのもつ零細性と全体性，系統性と非系統性をいかに辨別して研究を進めてゆくのか。そのために必要な方法とは何か。まだまだわからないことは少なくない。今後もそうした課題の解決に向け、模索を続けていきたいと思う。

図像出典一覧

- 図像 2 John Ross, *Manchuria*, Edinburgh, 1895. 東洋文庫請求記号：貴 P-V-A-a-39
Asakawa, Kan'ichi, "Japan in Manchuria," 2 vols., Vol. 1, Repr. fr. the *Yale Review*, Aug. & Nov., 1908. 東洋文庫請求記号：貴 P-V-a-65
- 図像 3 O. N. Denny [sic], Letters on the Independence of Korea. Cuttings from *the North China Daily News*, October 14th, 28th and 31st 1887 [sic]. 東洋文庫請求記号：貴 P-IV-b-18
- 図像 4 *Friend of China*, No. 1, Mar., 1875. 東洋文庫請求記号：XVIII-Bb-75
- 図像 5 Johs. de Ryke, *The Improvement of the Lower Hwangpu or Woosung River to the Port of Shanghai with Remarks on Messrs. Franzius and Bate's "International Project" of Feb. 1902*, Tokyo, 1902. 東洋文庫請求記号：P-III-a-2156
- 図像 6 *The Riot in Shanghai on December 18th*, 1905, Described and Reviewed in the *North-China Daily News* and Repr. fr. the same, Shanghai, 1906. 東洋文庫請求記号：貴 P-III-a-2449